

年間授業計画

高等学校 令和7年度（1学年用） 教科 国語 科目 現代の国語

教科：国語 科目：現代の国語 単位数：2 単位

対象学年組：第1学年 1組～7組

使用教科書：（高等学校 現代の国語（第一学習社））

教科 国語 の目標：

【知識及び技能】生涯にわたる社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】生涯にわたる社会生活における他者との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を伸ばす。

【学びに向かう力、人間性等】言葉のもつ価値への認識を深めるとともに、言語感覚を磨き、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、生涯にわたり国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。

科目 現代の国語 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	領域			評価基準	知	思	態	配当 時数
			話・聞	書	読					
1 学 期	A 評論のしるべ 【知識及び技能】 自分の意見や考えを論述するために、文章の内容や構成、論理の展開の仕方などを積極的に捉える。 【思考力、判断力、表現力等】 筆者の提案する人間の生き方について、文章構成をもとに把握し、自分に照らして考えを深める。 【学びに向かう力、人間性等】 粘り強く本文の構成と論理の展開を捉え、学習課題に沿ってまとめる。	・評論 「『本当の自分』幻想」平野啓一郎			○	・主題に至る論の構造を把握し、主張に説得力を持たせるための論の展開について考える。 ・内容や構成、論理の展開を的確に捉え、要旨を把握している。 ・文章に含まれている情報を相互に関係づけながら、内容を解釈している。 ・主張と論拠、個別と一般化、推論など、情報と情報との関係を理解している。 ・筆者の提言に対する考えを積極的に考え、表現の仕方を工夫して書こうとしている。	○	○	○	8
	定期考査						○	○		1
	B 文学のしるべ 【知識及び技能】 本文中に登場する主な常用漢字や語句・語彙、また文章の効果的な組立て方や接続の仕方について、その構造や特色などを理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 下人の行動や心理をもとに場面の展開を捉え、老婆の語る論理が下人の決断に与えた影響を読み取るなどして、根拠の示し方や説明の仕方、表現の仕方を工夫して自分の考えを的確に伝える。 【学びに向かう力、人間性等】 内容の解釈を踏まえて粘り強く下人の行為を評価し、表現の仕方を工夫して書く。	・小説 「羅生門」芥川 龍之介			○	・下人の行動や心理をもとに場面の展開を捉え、老婆の語る論理が下人の決断に与えた影響を読み取るなどして、自分の意見や考えを的確に論述している。 ・読書の意義と効用を理解している。 ・自分の意見や考えを論述するために、文章の内容や構成、論理の展開の仕方などを積極的に捉えようとしている。 ・内容の解釈を踏まえて粘り強く下人の行為を評価し、表現の仕方を工夫して書こうとしている。 ・本文中に登場する主な常用漢字や語句・語彙、また文章の効果的な組立て方や接続の仕方について、その構造や特色などを理解している。	○	○	○	15
	定期考査						○	○		1

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	領域			評価規準	知	思	態	配当 時数
			話・聞	書	読					
2 学 期	C 評論のしるべ 【知識及び技能】 本文中に登場する主な常用漢字や語句・語彙、また文章の効果的な組立て方や接続の仕方について、その構造や特色などを理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 筆者の提案する人間の生き方について、文章構成をもとに把握し、自分に照らして考えを深める。 【学びに向かう力、人間性等】 筆者の提言に対する考えを積極的に考え、表現の仕方を工夫して書く。	・評論 「水の東西」山崎 正和		○		・東西の対比関係を用いながら、日本の水文化に見られる特徴について論じる叙述の方法を把握している。 ・文章に含まれている情報を相互に関係づけながら、内容を解釈している。 ・個別の情報を一般化する筆者の論理について自分の考えをもち、表現を工夫してまとめようとしている。 ・水を用いた芸術や仕掛けについて積極的に題材を探し、表現の仕方を工夫して説明しようとしている。 ・本文中に登場する主な常用漢字や語句・語彙、また文章の効果的な組立て方や接続の仕方について、その構造や特色などを理解している。	○	○	○	8
	D 小説のしるべ 【知識及び技能】 主張と論拠など、情報の扱い方について理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 父との過去の会話を重層的に描いた構成を把握し、一冊の本にまつわる三人の人間の思いを読み取るなどして、根拠の示し方や説明の仕方、表現の仕方を工夫して自分の考えを的確に伝える。 【学びに向かう力、人間性等】 本文に叙述された本に対する思いを積極的に読み取り、自分にとって思い入れのある本を、根拠を示してまとめる。	・小説 「砂に埋もれたル・コルビュジェ」原田 マハ		○		・父との過去の会話を重層的に描いた構成を把握し、一冊の本にまつわる三人の人間の思いを読み取るなどして、自分の意見や考えを的確に論述している。 ・読書の意義と効用を理解する。 ・自分の意見や考えを論述するために、文章の内容や構成、論理の展開の仕方などを積極的に捉えている。 ・本文に叙述された本に対する思いを積極的に読み取り、自分にとって思い入れのある本を、根拠を示してまとめようとしている。	○	○	○	7
	定期考査						○	○		1
2 学 期	E 小説のしるべ 【知識及び技能】 本文中に登場する主な常用漢字や語句・語彙、また文章の効果的な組立て方や接続の仕方について、その構造や特色などを理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 「夢」という非日常性を持った世界において、「自分」は何を判断の根拠としているかを読み解くなどして、根拠の示し方や説明の仕方、表現の仕方を工夫して自分の考えを的確に伝える。 【学びに向かう力、人間性等】 「第一夜」あるいは「第六夜」で解釈した内容をまとめ、表現を工夫しながら積極的にコラム記事を書く。	・小説 「夢十夜」夏目 漱石		○		・「夢」という非日常性を持った世界において、「自分」は何を判断の根拠としているかを読み解くなどして、自分の意見や考えを論述する。 ・比喩や言い換えなどの修辞を理解している。 ・主張と論拠など、情報と情報との関係を理解している。 ・解釈した内容を工夫してまとめ、積極的に紹介文を書こうとしている。	○	○	○	8
	F 小説のしるべ 【知識及び技能】 主張と論拠など、情報の扱い方について理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 恐怖体験の一つとして語られる、幽霊でも超常現象でもない、人の内面に潜む恐怖とは何かを読み解くなどして、根拠の示し方や説明の仕方、表現の仕方を工夫して自分の考えを的確に伝える。 【学びに向かう力、人間性等】 粘り強く本文を読んで自分の考えを深め、考えが伝わるように工夫してまとめる。	・小説 「鏡」村上 春樹		○		・恐怖体験の一つとして語られる、幽霊でも超常現象でもない、人の内面に潜む恐怖とは何かを読み解くなどして、自分の意見や考えを的確に論述している。 ・自分の意見や考えを論述するために、文章の内容や構成、論理の展開の仕方などを積極的に捉えようとしている。 ・粘り強く文章を読んで自分の考えを深め、考えが伝わるように工夫してまとめている。	○	○	○	7
	定期考査						○	○		1

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	領域			評価規準	知	思	態	配当 時数
			話・聞	書	読					
3 学 期	G 評論のしるべ 【知識及び技能】 主張と論拠、個別の情報と一般化された情報、推論の仕方など、情報の扱い方について理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 具体的事例から一般論への展開と、対比の構造とを手がかりとして、近代化と時間の合理性との関係を理解する。 【学びに向かう力、人間性等】 対比による推論を叙述を基に理解し、学習課題に従って要旨をまとめる。	・ 評論 「不均等な時間」 内山 節			○	・ 具体的事例から一般論への展開と、対比の構造とを手がかりとして、近代化と時間の合理性との関係を理解している。 ・ 近代における時間について述べた文章を読み、自分の意見や考えを的確に論述している。 ・ 対比による推論を叙述を基に理解し、学習課題に従って要旨をまとめている。 ・ 既習の評論と粘り強く読み比べ、積極的に持続可能な社会に関する意見文を書こうとしている。	○	○	○	7
	H 小説のしるべ 【知識及び技能】 本文中に登場する主な常用漢字や語句・語彙、また文章の効果的な組立て方や接続の仕方について、その構造や特色などを理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 三つの小動物の死と関連して心境が語られる構成を読み取り、作中に示された死生観について考えを深めるなどして、根拠の示し方や説明の仕方、表現の仕方を工夫して自分の考えを的確に伝える。 【学びに向かう力、人間性等】 自分の意見や考えを論述するために、文章の内容や構成、論理の展開の仕方などを積極的に捉える。	・ 小説 「城の崎にて」 志賀 直哉	○			・ 三つの小動物の死と関連して心境が語られる構成を読み取り、作中に示された死生観について考えを深めるなどして、自分の意見や考えを的確に論述している。 ・ 読書の意義と効用を理解している。 ・ 作品に表れた死生観を積極的に読み取り、意見をまとめて話し合おうとしている。	○	○	○	5
	定期考査						○	○		1 合計 70